

# 風で走らせよう！

## 出雲市立中央保育所・幼稚園

[5歳児]

風の強さを気かけたり、風で動くおもちゃに興味を持って遊んだりしていた子どもたちは、風で動く車に目を止め、「この車おもしろそう」と作り始める。

全体の子どもの様子 [ ] と A児の様子	T = 保育者	保育者の受け止め [ ] と援助 [ * ]
<p><u>6月上旬</u> 風の弱い日、雨の日が続く、風で走る車をなかなか走らせることができない。そこで自分で風を起こして走らせる方法を思いつく。家庭からも材料を持ってきて、風の車を作る子どもが増え、いろいろ試してみる姿が見られる。 ・装飾にこだわっていた車がシンプルな形になっていく。 ・帆の部分にはビニール袋のほかに、クリアファイル、透明トレーなどさまざまな材料を使ってみる。</p> <p><u>6月15日</u> A児：大きなビール箱を持ってきて車を作り始める。ペットボトルのキャップのタイヤでは車体の大きさに対して小さすぎて走らない。「どうしたら走れるかな？」と保育者に相談することで、タイヤに問題があると思い、代わるものがないか探す。</p> <p><u>6月19日</u> A児：チーズの丸箱をタイヤにすると走るようになる。 他の子どもも家庭から材料を持ってきたりして、車のタイヤをいろいろ変えてみる。(のりの蓋やガチャガチャのケース、CD) 大きなタイヤが安定してよく走ることが分かってくる。</p> <p><u>6月21日(とても風が強い日)</u> 南側のテラスがよく風が吹くことが分かり、走らせてみる。 A児：大きな車なのでなかなか走らない。プラスチック板の帆のつけ方をじっと見ていて、へんの字のつけ方から直線のつけ方に変えてみる。見事成功！風をよく受けるようになり、よく走る。</p> <p><u>6月22日～29日</u> A児：雨の日には遊戯室や廊下で、風の強い日にはテラスで、友達と車を走らせる競争をする。コースを作り、スタート係やトーナメント表の係など自分たちで役割を分担しながら進める。 「難しいコースも作ってみたい」と板などを使って坂道を作り、車を登らせていくコースを考える。 A児：ストップウォッチを使い、自分の車のスピードを時間で計る。「ばく14秒。さっきより速い」</p>	<p style="text-align: center;"></p> <p style="text-align: center;"></p>	<p>春に比べ、風が弱くなってきていることに気付き、自然の風では車が進まず、行き詰っていることが分かる。 * うちわ、扇風機、小さな扇風機などを準備しておき、いろいろな風があることに気付かせる。 みんなが軽くて小さい車を作っている中、「大きな車を走らせたい」と意欲を持って試そうとしている姿を支える。 * キャップ以外にタイヤにできるものがないか、身の回りにあるものをあれこれ見ながら考え、チーズの丸箱を見つめる。 * チーズの丸箱、ガチャガチャのケース、のりの蓋、CD、丸型のプラスチックなどを探して集めたり、家庭に協力を呼びかけたりする。</p> <p>保育者に頼りがちであったのが、自分で考え、試す姿が見られるようになったことに遊びへの意欲を感じる。</p> <p>自分たちで天候によって場を選び、コース作りをしていることとする姿に意欲を感じる。 * 人との競争だけではなく、自分の車がだんだん速く走っていることがわかりやすいよう、ストップウォッチを準備する。</p> <p>自分の発見、気付き、分かったことを一生懸命友達に伝えようとする姿に感心する。</p> <p>* 風の強弱について気付き、試していけるようヒントを与える。 * 話し合いで大きなうちわの風をみんなで体感し、A児の発見を伝える。</p> <p>A児の提案を「おもしろい」と感じ、子どもたちが力を合わせて一つのことに取り組める活動になるのではないかと考える。</p>
<p><u>7月1日</u> 遊戯室でコースを作り、4人ずつで競争する。 レースのたびに、車が上手く走らない友達にアドバイスをする( J児) ・「もっとうちわを早く扇いだ方がいいよ」と風の送り方の工夫を伝える。一緒に扇いでみる。 ・よく風の当たる車体の向きを探す。「車を反対向きにしてみよう」 A児：車が大きくて、うちわで扇いでも走らないことを悩んでいる。 T「外で走らせた時にはよく走ったのね」 I児「うん。外は強い風だったもん」 T「うちわの風はどうだ？」 I児「うちわの風は弱いが」 「大きな風が吹けばいいのに」 A児：保育者と一緒にダンボールと棒を使い大きな風を起こせる、大きなうちわを作る。車が走るようになり、大きな車を走らせるには、大きな風が必要であることが分かる。</p> <p><u>9月6日</u> A児：学級のみみんなに「みんなが乗れるようなもっと大きい車を作ったらおもしろいよね」と言う。</p>		

「それいいね！なんだかワクワクする」「大きいけど軽い車にした方がよく走ると思うよ」「どうやって動かす？」「大きな大きなうちわがいるね」などみんなでお話合う。

9月13日

T：保育者が大きな風の車を作り、走らせる。  
「わあー！すごい」「先生より速く走る車にするぞ」  
大きな車作りへの意欲が高まる。7～8人のグループになり、友達と力を合わせて大きな車作りに取り組む。



子どもたちに具体的なイメージを持たせ、更なるやる気を引き起こすために、教師が大きな風の車を作り、提示することにする。

\*どんな材料を使い、どのような車にするのか繰り返し話し合い、廃材などを集めて作る。

#### 考察

- ・風の車をつくる過程で「何で上手く走らないのかな」「どうしたらいいだろう」と考え、タイヤの大きさや車体の重さ、帆のつけ方に気付き、材料を工夫していった。また風の強さ弱さ、風向きを体感し自分で風を起こして車を走らせるおもしろさを感じていた。風の車にかかわればかかわるほど、車の仕組みや風についての興味が深まり、疑問や次へのめあてを持って、遊びへの意欲が高まっていった。
- ・風や車への興味を持ち風の車作りを始める、試行錯誤しながら作ったり、走らせたりすることを繰り返しやってみる、友達の姿に刺激を受けてやってみるなど活動への取り組み方はいろいろであったが、結果、全員が自分の車を作った。「力を合わせてもっと大きな車を作る」と更なる意欲も持っている。風の車は5歳児の子ども「やってみたい」という心を揺さぶり、遊びこんでいける教材ではなかったかと思う。

#### みどころ

この事例は、一人の幼児と学級全体の状況を把握し、保育を進めた様子が示されています。目的に向かって試行錯誤や問題解決をしながら、自分たちで意欲的に取り組む5歳児らしい変容を捉えることができます。

A児は他の車より大きなダンボール箱を使い、「大きな車を作る」という思いがあるので、＜車の大きさと支えるタイヤの大きさのバランス＞＜ダンボール箱の車を走らせるために必要な風の力＞などの問題に直面し、保育者の援助を受けながら解決し、製作しています。自分なりの考えや分かったこと(学び)があることで、「みんなが乗れる車」を作ることをイメージしてクラスみんなに提案して作る(意欲)という展開に結びついています。